研究キーワード
水産資源, 魚類の初期生態

太田 太郎

准教授

OHTA, Taro

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

E-Mail oota-t@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目　鳥取学, 麒麟の知, 漁業資源保全学, 水域生態学

■研究者略歴

1997（平成 9）年 3月	京都大学農学部水産学科卒業
1999（平成11）年 3月	京都大学大学院農学研究科修士課程応用生物科学専攻修了
1999（平成11）年 4月	京都大学大学院農学研究科博士後期課程応用生物科学専攻進学 日本学術振興会特別研究員（DC 1）採用
2002（平成14）年 3月	京都大学大学院農学研究科博士後期課程応用生物科学専攻研究指導認定
2002（平成14）年 4月～ 2016（平成28）年 3月	鳥取県職員に採用　所属：農林水産部水産振興局水産課　鳥取県栽培漁業センター 鳥取県水産試験場　など
2004（平成16）年 3月	京都大学大学院農学研究課応用生物化学専攻博士課程修了（農学博士）
2016（平成28）年 4月	公立鳥取環境大学地域イノベーション研究センター特命准教授
2019（平成31）年 4月	公立鳥取環境大学人間形成教育センター准教授
2020（令和 2）年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授　兼　環境経営研究科環境学専攻准教授

Research

■取得学位　博士（農学）（京都大学）
■専門分野　魚類生態学，水産資源生物学，漁業制度及び漁業法令
■現在の研究テーマ　・水産生物の資源生態　・鳥取県における漁業制度
■所属学会　日本水産学会　ほか
■資格　潜水士，日本さかな検定１級

Data

■研究等活動

【著書】
・「有明海のスズキの初期生態を探る」,稚魚学－多様な生理生態を探る（共著）, 株式会社生物学研究者, 東京, 2008, pp. 277-286
・「耳石による回遊履歴追跡」, スズキと生物多様性（共著）, 恒星社厚生閣, 東京, 2002, pp. 91-102.

【論文】
・鳥取県千代川水系におけるカジカ種群の分布域と回遊,（共著）水産学会誌;2023（印刷中）
・鳥取県沿岸海域で採集したアユ仔稚魚の耳石日周輪解析による孵化日と初期成長の推定.（共著）水産増殖　2022: 70: 343-352.
・湖山池沿岸部におけるテナガエビの出現動向、（共著）鳥取県立博物館研究報告 2022: 59 1-8
・鳥取砂丘海岸におけるペットボトルを指標とした海岸漂着ごみの挙動に関する気象，海象要因の解析　（共著）公立鳥取環境大学紀要 2021; PR1-PR8.
・鳥取市における漁業振興にかかる諸課題の抽出. (単著)公立鳥取環境大学紀要 2019; 16 RE31-35.
・水産物に関する消費者アンケート調査について. (単著)公立鳥取環境大学紀要 2019;　16 RE37-43.
・Numerical simulation of the migration and distribution of diamond squid (Thysanoteuthis rhombus) in the southwest Sea of Japan.（共著）Fisheries Oceanography 2009; 19: 63-75.
・Tagging studies on the diamond squid (Thysanoteuthis rhombus) in the western Sea of Japan.（共著）Bulletin of the Japanese Society of Fisheries Oceanography　2008; 72: 30-36 .
・Migration of Japanese temperate bass Lateolabrax japonicus juveniles within the Chikugo River estuary revealed by δ 13C analysis.（共著）Marine Ecology Progress series 2008; 358: 245-256.
・Distribution of Japanese temperate bass, Lateolabrax japonicus, eggs and pelagic larvae in Ariake Bay.（共著）Ichthyological Research 2007; 54: 367-373.
・稚魚期を有明海湾奥部河口域で過ごしたスズキの成長.（単著）海洋と生物 2007; 29: 33-39.
・Effects of river flow on larval growth and survival of Japanese seaperch Lateolabrax japonicus (Pisces) in the Chikugo River estuary, upper Ariake Bay.（共著）Journal of Fish Biology 2006; 69: 1662-1674.
・Environmental effect on diet, fecundity and condition of an endangered fish Neosalanx reganius (Osmeriformes) in the Chikugo Estuary, in the upper Ariake Bay, Japan. Aquat. Living Resour. 2006; 19: 59-68.
・Diel and tidal changes in the distribution and feeding habits of Japanese temperate bass Lateolabrax japonicus juveniles in the surf zone of Ariake Bay.（共著）Ichthyological Research 2006; 53: 129-136.
・Age, growth and hatching season of the diamond squid Thysanoteuthis rhombus estimated from statolith analysis and catch data in the western Sea of Japan.（共著）Fisheries Research 2006; 80: 211-220.
・Laboratory Observations On the early life stages of the diamond squid Thysanoteuthis rhombus.（共著）Journal of Molluscan Studies 2006; 72: 199-205.
・Catch fluctuations of the diamond squid Thysanoteuthis rhombus in the Sea of Japan and models to forecast CPUE based on analysis of environmental factors.（共著）Fisheries Research　2005; 72:　71-79.
・有明海湾奥部の干潟汀線域に出現する仔稚魚.（共著）魚類学雑誌　2002; 49: 109-120.
・筑後川河口で採集されたアリアケシラウオ仔魚の形態.（共著）魚類学雑誌2002; 49 : 103-108.
・Use of otolith microanalysis to determine estuarine migrations of Japanese sea bass Lateolabrax japonicus distributed in Ariake Sea.（共著）Fish. Sci. 1998; 64: 740-743.
・Otolith Sr concentration analyzed by PIXE in Ariake estuary dependent sea bass juveniles.（共著）Int. J. PIXE 1997; 7: 147-151.

【報告書・その他】
・鳥取県東部千代川水系に分布するギギTachysurus nudicepsの生態　地域イノベーション研究 2022: 9:56-61
・鳥取県沿岸域に分布するスズキの資源生物学的基礎情報について. 地域イノベーション研究 2021; 8:34-39
・千代川水系における水生生物の生息環境の地理情報化にむけた取組-調査手法の確立と地理情報化の基本設計について-.　地域イノベーション研究 2021; 8:27-33.
・鳥取県東部大谷海岸における2019年春季から秋季の藻場の現状. 地域イノベーション研究 2020; 7:31-37.
・千代川水系に設置された魚道の流速と水深の調査について. 地域イノベーション研究 2020; 7:38-46.
・多様で豊かな水産資源を育む漁場保全のあり方について～山陰鳥取の海を実例に～ . 第18回全国漁港漁場整備技術研究発表会講演集 Ⅰ - X

■社会貢献活動

・鳥取県漁業協同組合外部アドバイザー (H28 ～)
・鳥取県沖合底曳網漁業協会外部アドバイザー (H28 ～)
・海と日本のプロジェクトin鳥取 実行委員　(H31 ～)
・鳥取県中部地区水産業再生委員会　委員（H30 ～）
・八頭町公共施設のあり方検討委員会　委員長　（H28年度）など

〔講演等〕
・Road to 2030 ～ SDGsで考えるふるさとのミライ～「海の環境を考える」　（中海テレビ）　出演（R3年10月）
・公立鳥取環境大学 公開講座 夏休みの小学生対象講座『チリメンモンスター教室』(R3年7月）ほか
・公立鳥取環境大学市民公開講座「未来に残そう!!魚の豊かな鳥取の海」米子会場(R2年10月）
・第18回全国漁港漁場整備技術研究会「基調講演　多様で豊かな漁場環境保全のあり方について　～山陰鳥取の海を実例に～」（R1年10月）
・日本海テレビ「海と日本のプロジェクトinとっとり」：出演, イベント講師など（H29年度よりR3年度まで　年3 ～ 5回）

〔集中講義〕
非常勤講師：京都大学大学院農学研究科（修士課程）応用生物科学特別講義Ⅶ（R1年6月）

分野　環境保全・資源管理／農林・水産業

キーワード　水圏環境／水産資源／漁業／養殖業

水圏環境の保全及び水圏生物の資源生態に関する研究

環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻
准教授

太田 太郎
OHTA, Taro

SDGs 関連項目

研究内容

我が国は四方を海で囲まれ、陸域には無数の河川が流れている。このため、我々日本人の生活は、古来、水圏を利用することにより発展してきた。一方で経済活動の活性化に伴う生活水準の向上と相反し、水圏環境の荒廃が今日的な課題となっている。特に水圏生物は食糧資源としても利用されており、これらの保全や管理のあり方を検証することは持続可能な社会を構築する上でも極めて重要である。水圏生物の生態やこれらを取り巻く水圏環境についての研究を行うとともに、漁船漁業や養殖漁業の技術開発にかかる具体的な課題についても研究を進めている。

想定パートナー

自治体、漁業、養殖業

応用分野

効率的な漁業・養殖業の推進、水産資源の管理、水圏の環境保全

取組実績

・日鉄エンジニアリング、日本水産、弓ヶ浜水産、等：大規模沖合養殖システム実用化研究（「知」の集積と活用の場による革新的技術創造促進事業）（2017～2020年度）
・鳥取県漁業協同組合、鳥取県農林水産部水産振興局 等：鳥取ブルーカーボンプロジェクト実行委員（2022年度～）
・鳥取県栽培漁業センター、千代川漁業協同組合、等：鳥取県東部におけるアユの資源回復に関する取り組み（2016年度～）
・鳥取県沖合底曳網漁業協会、鳥取県漁業協同組合、鳥取県農林水産部水産振興局等：資源管理手法検討部会（水産庁）の鳥取県参考人（2021年度～）
・日本海テレビ等：海と日本のプロジェクトin とっとり　アドバイザー（2017年度～）